

都市計画実習 最終レポート

2015 年 6 月 30 日

社会工学類 都市計画専攻

サステイナビリティ班

班長 小出拓也 副班長 藤原真梨子

印刷機器 斎木亮作 資料 DB 星野萌々子

鈴木大志 竹中太基 守興尚史

指導教員：谷口守 TA：山根優生

目次

第 1 章 序論

1.1 研究のフロー

1.2 背景・目的

1.2.1 つくば市未来構想について

1.2.2 都市の中の墓地の位置付け

第 2 章 本論

2.1 既存研究レビュー

2.2 ヒアリング調査

2.2.1 つくば市役所

2.2.2 熊の山霊園

2.2.3 つくば霊園

2.3 アンケート調査

2.3.1 お墓参りに関する認識分析

2.3.2 出身地域による認識の違い

2.3.3 つくば市にお墓が欲しいか

2.3.4 アンケート調査まとめ

2.4 需給予測

2.4.1 需給予測の概要

2.4.2 需要予測

2.4.3 供給予測

2.4.3.1 つくば市民対象の墓地分布

2.4.4 需要と供給のバランス

第 3 章 提案

3.1 つくば市未来構想に関して

3.2 樹木葬の提案

第 4 章 参考文献・謝辞

4.1 参考文献

4.2 謝辞

第 5 章 補足資料

5.1 アンケート用紙

図表リスト

表 2.1 つくば市役所へのヒアリング

表 2.2 熊の山霊園へのヒアリング

表 2.3 つくば霊園

図 2.1 つくば市役所環境保全課にて撮影した写真

図 2.2 熊の山霊園にて撮影した写真

図 2.3 つくば霊園にて撮影した写真

図 2.4 お墓参り経験の有無(n=183)

図 2.5 お墓参り頻度(n=183)

図 2.6 お墓参りに対する認識(n=183)

図 2.7 お墓参り経験の有無と認識におけるクロス分析(n=183)

図 2.8 出身地域と認識によるクロス分析(n=183)

図 2.9 永住すると仮定した場合つくばにお墓が欲しいか(n=183)

図 2.10 出身地域によるお墓の購入欲求の違い(n=183)

図 2.11 つくば市の人口推移

図 2.12 累計墓地需要予測

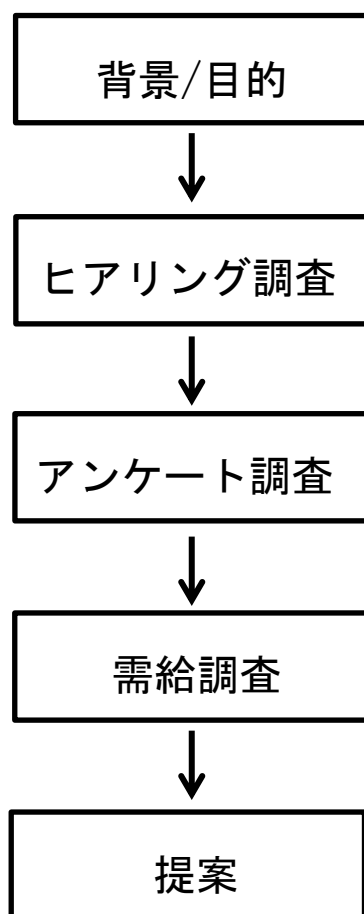
図 2.13 墓地経営認可数推移

図 2.14

図 2.15 累計墓地需要数と供給のバランス

第1章 序論

1.1 研究のフロー



1.2 背景・目的

1.2.1 つくば市未来構想について

つくば市は計画・開発されて 50 年という節目を迎える平成 26 年度に、従来の総合計画とは異なる 21 世紀後半までのまちづくりの基本指針「つくば市未来構想」を策定した。今後のつくばのまちづくりはこの未来構想に沿って行われる。

つくば市は「つくば市未来構想」のなかで、「住んでみたい 住み続けたいまち つくば」というスローガンを掲げている。しかし、都市として成熟を迎える時期にさしかかっているにも関わらず、「つくば市未来構想」に墓地に関する言及はなく、墓地整備までは未だに手が行き届いていない状況である。

1.2.2 都市の中の墓地の位置付け

「ゆりかごから墓場まで」という言葉に代表されるように、社会福祉、社会基盤は人生の始まりから終わりまでをサポートしてはじめて完成と言えるだろう。つまり、都市にとって最後に必要な社会基盤が墓地なのではないだろうか。私たちは、文字通り「ゆりかごから墓場まで」きちんと生きて行くことができる、そのようなまちが良いまちであると考え、つくばに住み続け、いずれ骨を埋めてもらうにはどうすればいいか、墓のあり方を見直すことによって模索することとした。

第2章 本論

2.1 既存研究レビュー

産業変化と人口の急激な変化の中で、近年日本は家族形態やライフスタイルが大きく変わってきており、それに対応した空間需要が起きている。「近代日本墓地の成立と現代的展開に関する研究」（平成6年 槇村）によると、人生最後の舞台装置である墓地も都市型、核家族、サラリーマン世帯が多くを占めるようになった現在、量、質ともに墓地のあり方は現状のままでは対応できなくなっており、時代変化の中での新しいあり方が求められると考えている。近代化の中で地縁、血縁による地域共同体を離れ、都市にバラバラの浮遊する個人が人生最後のステージとしての空間拠点を求めて、墓地から逆照射する形で地縁、血縁に依らないコミュニティの形成を模索し始めていることに近代を超える墓地空間の萌芽がみられるとしている。

2.2 ヒアリング調査

2.2.1 つくば市役所

目的	つくば市にある霊園施設の現状把握
対象者	つくば市役所 環境保全課 富田徹 様
日時	2015年4月29日(電話でのヒアリング) 2015年5月8日(市役所にてヒアリング)
場所	筑波大学(2015年4月29日電話でのヒアリング) つくば市役所(市役所にてヒアリング)
担当	齋木亮作 小出拓也 星野萌々子

表 2.1 つくば市役所へのヒアリング

〔墓地台帳について〕

昭和36年より管理しており、地区別に管理している。つくば市合併の時、全6町村分の管理台帳及び県の許可した台帳を集めてある。様式がバラバラのまま・古い地名のままで記録されている。墓地台帳自体は分厚いファイルで厚みが15cmほどであった。

- 掲載情報：経営者名・管理者名・住所・名称
- 情報公開の手順：

台帳をコピー→公開できない部分をペンなどで黒塗りする→またコピーする。

(一枚 10 円の費用が必要)



図 2.1 つくば市役所環境保全課にて撮影した写真

2.2.2 熊の山霊園

目的	霊園の需要と供給の把握と霊園の経営問題の調査
対象者	熊の山霊園 代表取締役 沖山通玄 様
日時	2015 年 5 月 28 日
場所	熊の山霊園
担当	小出拓也 竹中太基 星野萌々子

表 2.2 熊の山霊園へのヒアリング

[区画の売却状況と将来的な墓の展望]

熊の山霊園における墓の区画には十分な空きがあった。年に 2 区画から 3 区画売れるのだが、景気が悪いこともあって、年々区画の販売数は減少傾向にある。墓を購入するにあたり見学者が年に 10 人ほど来園するが、購入する人はあまりいない。熊の山霊園付近にある寺などにも墓があるが、空き区画があまりないことや、この霊園周辺地域の人口が増加していることから、徐々に区画が埋まっていくのではないかと。

[熊の山霊園が顧客獲得に際して行っている宣伝]

顧客を獲得するに際して、主につくば市を中心に利用者獲得を試みている。

他にも茨城県南の地域からも利用者がくることから、県南の地域にも小規模ながらも宣伝活動を行っている。基本的には、大規模な宣伝活動は行っておらず、過去に一度告知を兼ねて新聞の広告部分に掲載した。それ以外では、熊の山霊園のウェブサイトにも霊園の情報と広告、そして墓販売のポータルサイトから広告を載せるように依頼されるのみであった。

[墓の購入者の出身地域]

霊園購入者は主につくば市と茨城県南の地域から購入者が現れる。しかし、自身の墓を購入する顧客は、関東周辺の地域から来園し、空き区画から契約を交わすことがある。このような利用者は、自身の親戚や知り合いがつくば市周辺（熊の山霊園周辺）に暮らしているということではなかった。

[墓の購入者/来園者の特色]

墓や区画の購入者は親類の墓や自分の墓を購入する。主に昔までは電話での問い合わせが主流だったが、現在ではインターネットの発達もあり、電話での問い合わせは減少傾向にある。宗教不問の霊園なので、創価学会の会員といった様々な宗教の人も購入しにくる。霊園の区画を購入した顧客は、墓石を和型または洋型から選ぶ。業者が基本的にすべて対応する。

主にお参りを目的に来園する人はお盆やお彼岸の時期に多く、熱心な来園者には月命日に来園する人もいる。

[経営者が抱える問題]

先代の取締役が事業を開始した。霊園は一度事業を開始してしまったら、後には引くことができない産業であり、経営続行が不可能な時は他者に委託することが求められる。

霊園と区画の利用を契約している顧客の中には管理費用を滞納する人がいて、解決することに困難がある。中には、お骨を埋めている人の親族が引っ越しなどで住所変更をするので、管理費用の請求書が届かなく、不利益が生じることもある。

経営者の方曰く、霊園経営では赤字がでるので、生計を立てるのは難しく、基本的に副業として霊園の維持をしている。



図 2.2 熊の山霊園にて撮影した写真

2.2.3 つくば霊園

目的	霊園の需要と供給の把握と霊園の経営問題の調査
対象者	つくば霊園 代表取締役 田中章雄 様 つくば霊園 来園者の方
日時	2015 年 5 月 31 日
場所	つくば霊園
担当	齋木亮作 竹中太基 星野萌々子

表 2.3 つくば霊園

[つくば霊園が対象としている地域]

つくば霊園は関東近郊の地域から霊園の顧客を確保している。つくば市だけでなく、茨城県南の地域にも視野を向けている。

宣伝方法は主にネット上の広告のみであり、新聞の広告といったものを利用したことはこれまでない。広告料に経費を割くことができないのが現状で、顧客の確保は主に、口コミや業者による紹介が大多数を占めている。

問い合わせは電話が主流で顧客に見学に来てもらって、霊園の紹介を行っている。見学者は月に 3 人~4 人くる。墓販売のポータルサイトやネットでの対応は受動的である。

[墓利用者の特色]

墓の利用者は自分の墓か親戚の墓を購入しに来園するかお参りに参加する。

自身の墓を購入する人と親族の墓を購入しにくる人が五分五分で来園する。宗教不問を原則としているが、イスラム教のように土葬を基本としている宗教に対応することができない。

[墓の持続可能性]

墓石の販売自体は利益率が低く、業者が加工した墓石を利用者が選択し購入する。霊園法に則り、販売をする。霊園経営において、墓石の存在も大きな存在であり、国産石ブランドを顧客に勧めている。四国の石や真壁の石といった石を原石から購入し業者が加工している。霊園が墓石販売や区画の販売に係る際は、透明性を出すために、見積書や証明書を提出している。墓地や霊園の利益率は高い。

[経営者が抱える問題]

先代の経営者が霊園を設置して、現社長が引き継いだ。つくば霊園の取締役は本業があり、副業で霊園の経営に携わっている。霊園経営だけでは、生活することは苦しいのが現状である。購入者が見学に来て、購入に至るまで長い期間を費やす。墓石の形や形態はすべて違うので業者にオーダーしている。墓購入の時は良い話を聞くことができない。つくば霊園が新しいので、今ある墓を守る人がいるが、購入した墓を守る人が将来いなくなってしまうことが今後の課題である。

[霊園を経営していて良かったこと]

親族や知り合いを亡くしてしまった人たちが、墓の存在で気が晴れ立ち直ることができる。霊園でコミュニティが出来ており、年配者たちの公共の場となっている。亡くなってしまっても、言葉を発することはないけど、お参りをすると会えたと思える。

[来園者へのヒアリング]

つくば霊園に墓を購入しに来園に来ていた 40 代から 50 代の夫婦にヒアリング調査に協力していただいた。つくば市の松栄に在住で、息子を亡くされたことで息子のお骨を埋めるために墓の購入を決心した。つくば霊園以外に、今鹿島の霊園にも見学に訪れたが、つくば霊園の景観の良さと立地から購入を決意

した。宗教不問で様々な人のお骨が眠っている霊園が気に入ったとのこと。洋型の墓を業者に委託しており、散骨といった墓のあり方には消極的であった。



図 2.3 つくば霊園にて撮影した写真

2.3 アンケート調査

墓地の持続可能性を考えるにあたって、将来お墓を購入することになるであろう今の若い世代、すなわち大学生世代のお墓参りに関する実態と認識を調査するために対象を筑波大学生と設定した。尚、当初はアンケートを需給調査に用いるためにつくば市民に対してお墓に関するアンケートを行う予定だったが、倫理的問題や規模的問題から断念した。

アンケート調査票については、補足資料を参照されたい。

【アンケートの概要】

調査名：お墓に関するアンケート

調査対象：都市計画原論履修者、都市計画実習履修者

配布方法：授業内配布

回収方法：授業終了時回収

実施期間：2015 年 5 月 28 日(木) , 2015 年 5 月 29 日(金)

回収部数：183 部

【アンケート項目】

- Q1. 性別、年齢
- Q2. 帰省先はどこか（そこは生まれ育った街か）
- Q3. お墓参りをしたことがあるか
- Q4. 何か所、お墓参りをしたことがあるか（有名人・偉人などは除く）
- Q5. そのお墓に行く頻度と、帰省先からお墓までの最もよく利用する交通手段と所要時間（片道）
- Q6. お墓参りに対してどのような認識をもっているか
- Q7. つくばが好きか
- Q8. つくばに永住すると仮定した場合、自分のお墓はつくばに欲しいか
- Q9. その他、お墓に関して意見等自由記入

2.3.1 お墓参りに関する認識分析

Q3「お墓参りをしたことがありますか」という問いに対する結果の集計が以下のとおりである。183人中168人がお墓参りをしたことがあると回答しているため、9割以上の方がお墓参り経験有りだということがわかる。

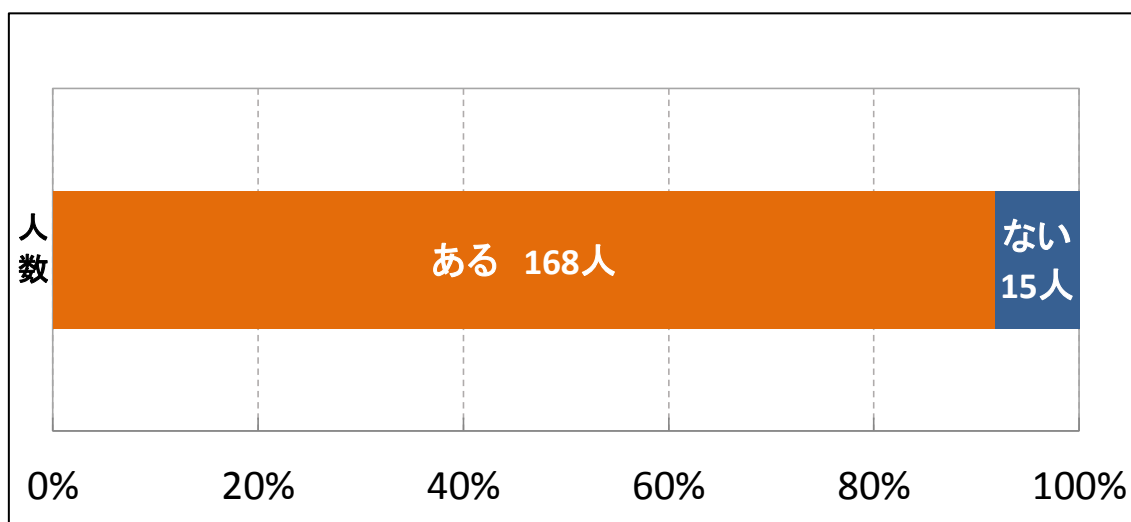


図 2.4 お墓参り経験の有無(n=183)

また、Q5 のお墓参り頻度を集計した結果が以下のとおりである。お墓 1 か所に付き、年に 0～2 回お墓参りをするという人が最も多いことがうかがえる。尚、Q5 に関してはお墓参りをする頻度が高い順に 3 つまで回答していただいたため、回答数が 183 を越えている。

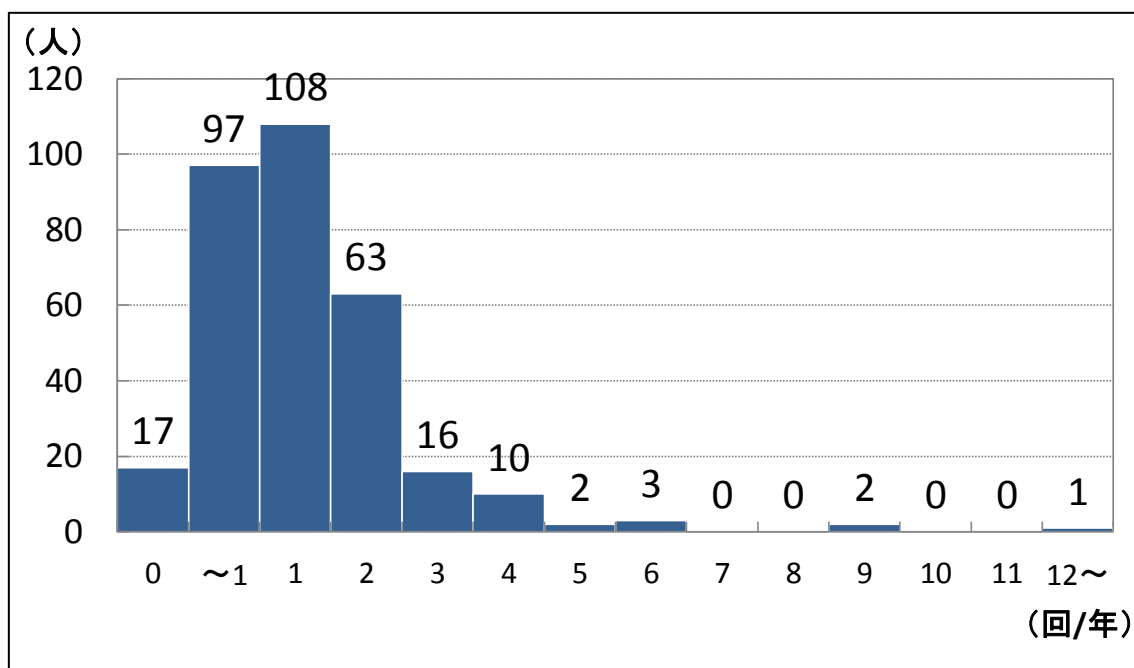


図 2.5 お墓参り頻度(n=183)

Q6 のお墓参りに関する認識の調査の集計結果が以下のとおりである。お墓参りに対して「亡くなった方をしのぶ機会」、「大切にすべき文化」という認識を持っていることが多いことがわかる。多くの人がお墓参りに肯定的なイメージを持っているということだ。しかし、「義務」、「面倒くさい」と思っている人も少なくなく、ネガティブなイメージを抱いている人がいることを把握できた。また、お墓参りを「わくわくするイベント」だと思っている人は 183 人中 1 人もいなかった。

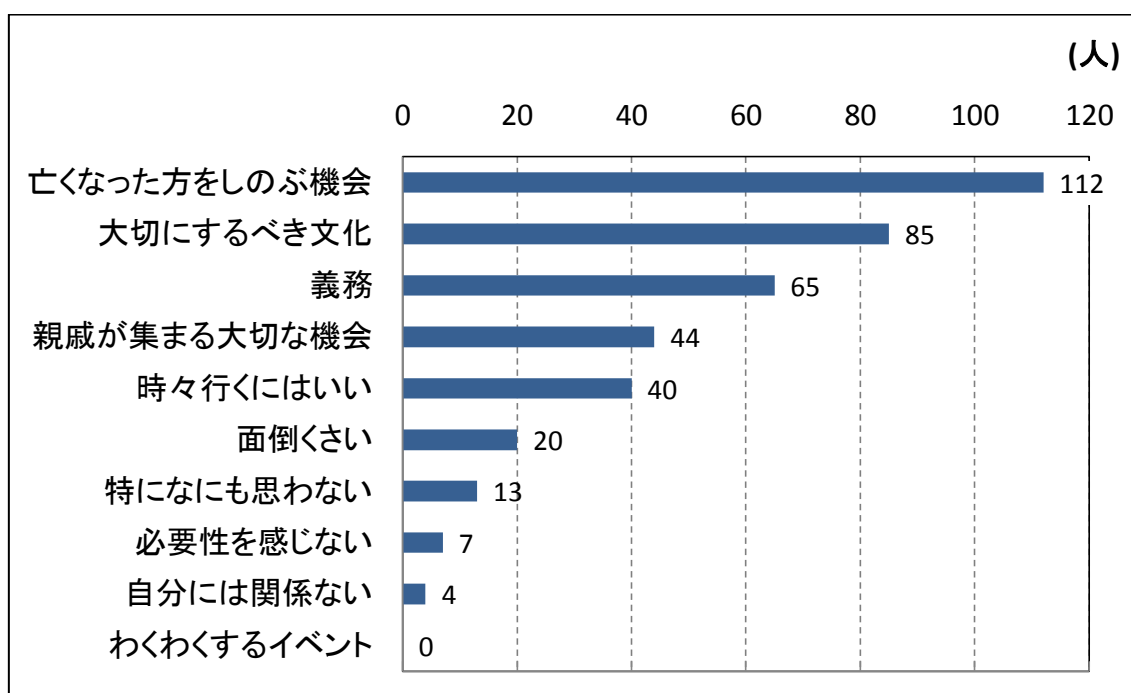


図 2.6 お墓参りに対する認識(n=183)

次に我々は、お墓参り経験の有無とお墓参りに対する認識についてのクロス分析を行った。図 のオレンジ色の横棒がお墓参り経験有の人、青色の横棒がお墓参り経験の無い人の回答である。また、図 の赤いハイライト部分の認識項目がお墓参りに対するポジティブな認識、青いハイライト部分の認識項目がお墓参りに対するネガティブな認識である。

まず、赤いハイライトのポジティブな認識項目に着目すると、お墓参り経験の無い人より有る人のほうがお墓参りに対してポジティブな認識を持っていることがわかる。逆に青いハイライト部分のネガティブな認識項目に着目すると、比較のお墓参り経験の無い人のほうがネガティブな認識を持っているというこ

とがうかがえる。

よって、お墓参り経験の有無が、お墓参りそのもののイメージに影響を与えられていると考えられる。

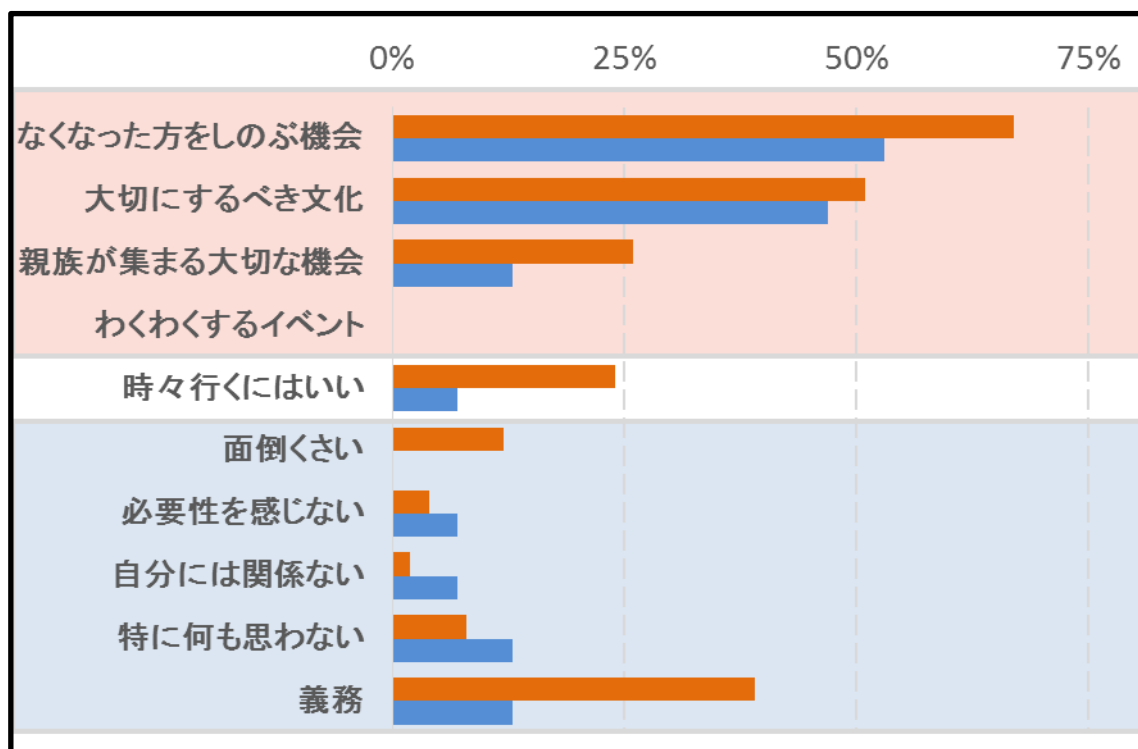


図 2.7 お墓参り経験の有無と認識におけるクロス分析(n=183)

2.3.2 出身地域による認識の違い

出身地域によってお墓参りに対する認識の違いはないのか疑問に思い、この分析をするに至った。その際、人口密度 3,000[人/k m²]以上の市区町村を「都市部」と設定し、それ以外を「非都市部」とした。(2014 年 10 月 1 日の推計人口を使用)

※千葉県我孫子市が約 3,100[人/k m²]で都市部に分類され、茨城県で最も人口密度の高い守谷市は約 1,800[人/k m²]で非都市部に分類される。

オレンジ色の横棒が都市部出身者、青色の横棒が非都市部出身者の回答である。認識項目の中で出身地域による差が顕著であった項目が以下の 4 項目であり、ネガティブな認識項目となっている。このことより、都市部出身者に比べ、非都市部出身者はお墓参りに対してネガティブなイメージを持っている傾向があるといえる。

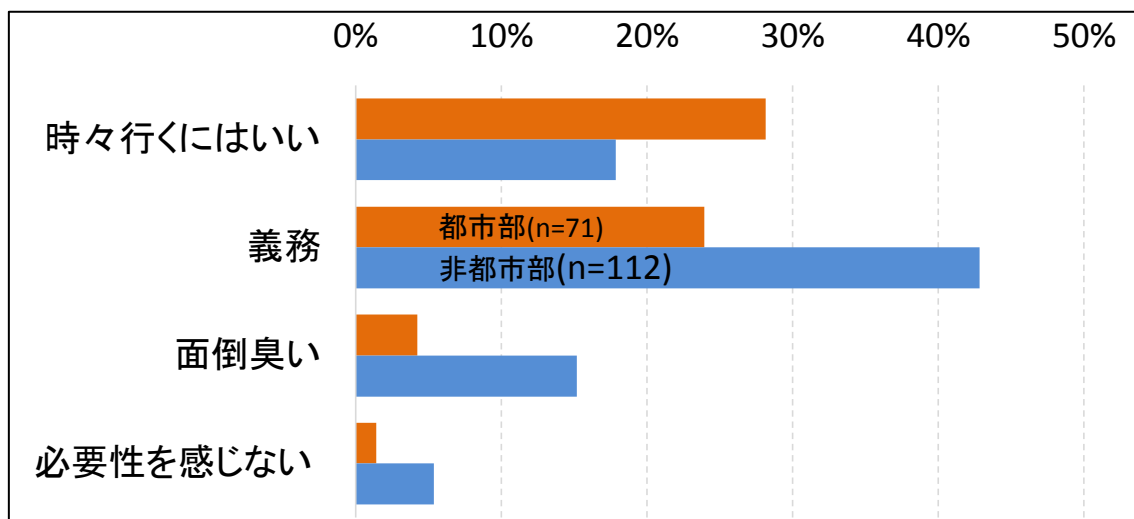


図 2.8 出身地域と認識によるクロス分析(n=183)

2.3.3 つくば市にお墓が欲しいか

Q9 で「つくばに永住すると仮定した場合、つくばにお墓が欲しいか」と尋ねたところ以下のような回答結果となった。「いない」、「あまりいない」という回答が6割以上を占め、「欲しい」、「ぜひ欲しい」という回答は約1割にとどまった。

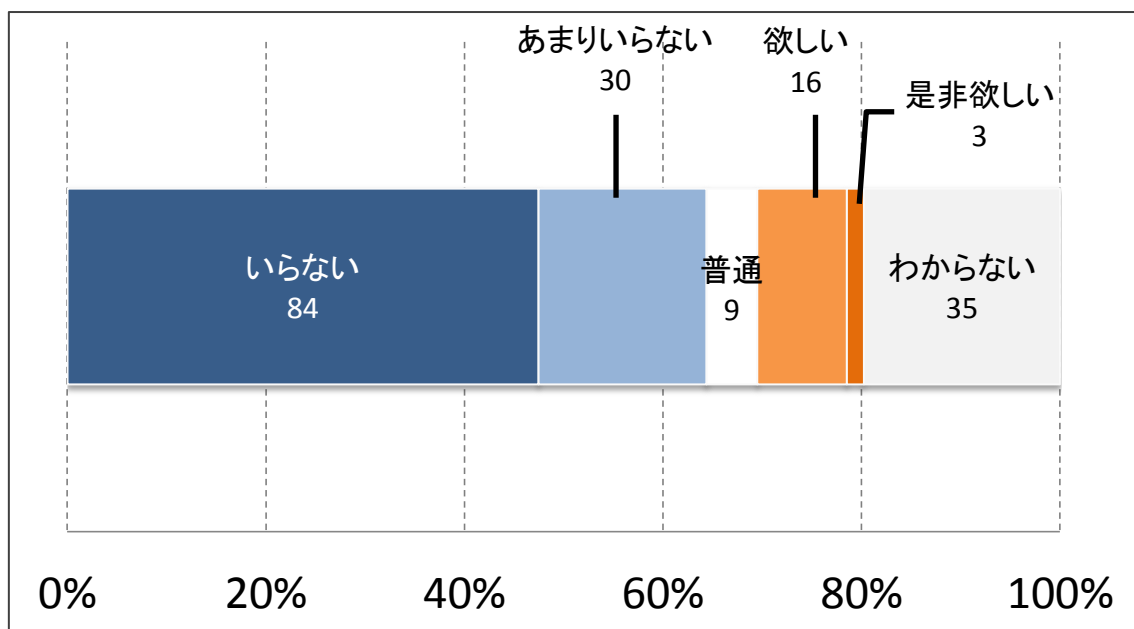
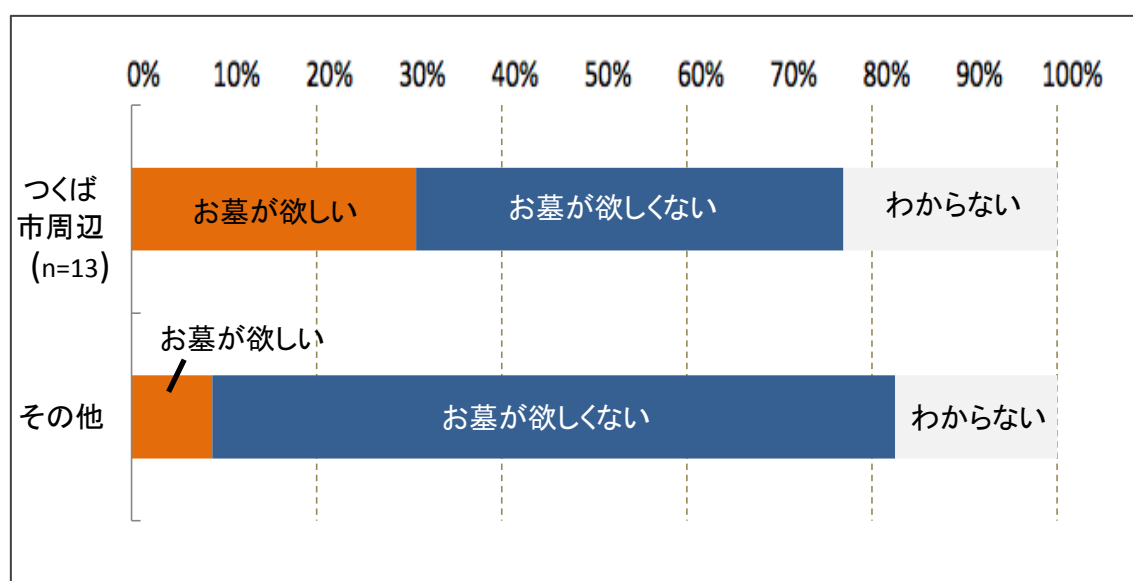


図 2.9 永住すると仮定した場合つくばにお墓が欲しいか(n=183)

そこで次に出身地域とのクロス分析を行った。つくばにお墓を購入する要因として、実家からの距離によるところが大きいと考えたからである。「つくば市周辺」をつくば市に隣接している地域（常総、土浦、牛久、取手、つくば）と設定した。このクロス分析の結果が以下のとおりである。

予想通り出身地域がつくば市周辺であると、つくば市に永住すると仮定した場合につくば市にお墓が欲しいと答える人の割合が高かった。この分析により、お墓を購入する際「お墓は近いところに欲しい」ということがわかる。



つくば市周辺→つくば市に隣接している地域（常総、土浦、牛久、取手、つくば

図 2.10 出身地域によるお墓の購入欲求の違い(n=183)

2.3.4 アンケート調査まとめ

アンケート調査の分析から「お墓参り経験の有る人はお墓参りに対してポジティブな認識をもち、お墓参り経験の無い人はお墓参りに対してネガティブなイメージを持っている」ということ、「都市部出身者に比べ、非都市部出身者はお墓参りに対してネガティブなイメージを持っている傾向がある」ということ、また「お墓は近いところに欲しい」ということが分かった。これらの考察を踏まえて最後に、つくば市が行うべき“墓地を考慮に入れた都市計画”を提案する。

2.4 需給予測

2.4.1 需給予測の概要

つくば市における墓地の需給状況が、将来的にどう変化していくかを明らかにするため、需要予測と供給状況を照らし合わせ、いつまでに墓地の空き区画が埋まるかを予測した。

2.4.2 需要予測

つくば市の人口は 2035 年にピークを迎えると予想されている。(図 2.11) よって 2035 年を境に人口構造が変化するため、墓地の需要数を予測するにあたって、既存の予測式では予測しきれないと判断した。そこで、2035 年までの需要を既存の簡易予測式で予測し、2035 年以降の需要を将来の墓地購入者になり得る学生へのアンケート調査結果から予測した。

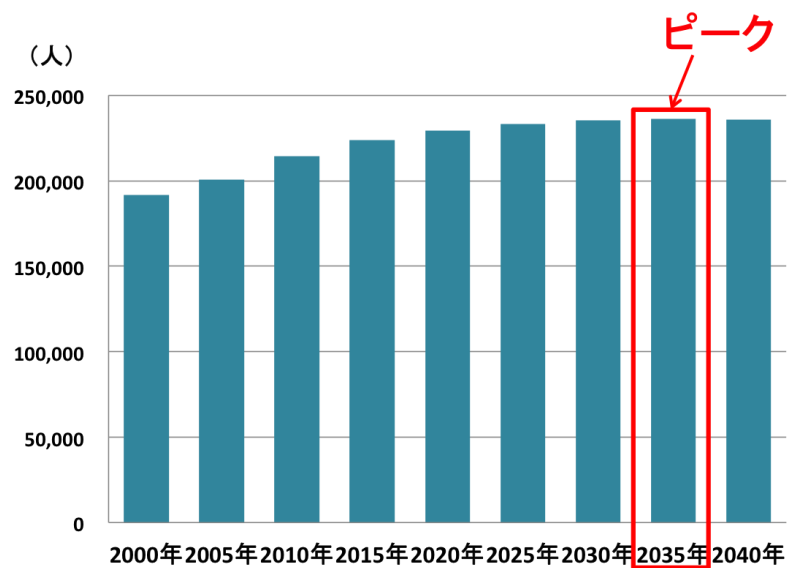


図 2.11 つくば市の人口推移

(ア) 2035 年までの需要予測

(i) 吉川の簡易予測式 (沖縄大学吉川博也教授による)

- ・ 総人口 $\times 13 \div 10,000$ = 年間墓地需要数
- ・ 総世帯数 $\times 4 \div 1,000$ = 年間墓地需要数
- ・ 死亡者数 $\times 0.2$ = 年間墓地需要数

上記 3 つの数値の平均を年間墓地需要数とする

(ii) つくば市への適用可能性の検証

吉川の簡易予測式は宜野湾市、豊見城市、浦添市、石垣市などの沖縄の行政による需要予測に用いられている。人口構造が似ている宜野湾市を代表例に挙げ、つくば市への吉川の簡易予測式の適用可能性を総人口に占める年間転出人口の割合によって検証した。

・宜野湾市

年間転出人口 376 人(2015 年 5 月中)×12 ヶ月=4,512 人

総人口 95,780 人(2015 年 4 月末)

年間転出人口／総人口 約 5%

・つくば市

年間転出人口 13,342 人(2014 年中)

総人口 220,135 人(2014 年 10 月末)

年間転出人口／総人口 約 6%

以上の結果から、宜野湾市とつくば市は、人口構造に加え総人口に占める年間転出人口の割合も非常に近く、簡易予測式はつくば市にも適用可能であると判断した。

簡易予測式による累計墓地需要予測数は図 2.12 の通りである。

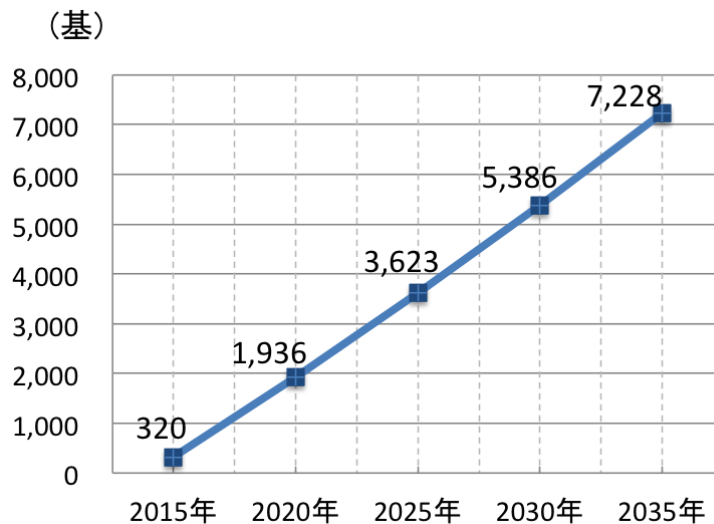


図 2.12 累計墓地需要予測

(イ) 2035 年以降の需要予測

(2035 年以降の需要) = (つくば市にお墓が欲しい人の割合) × (死者数) と

し、アンケート調査結果を用いて需要を予測した。

つくば市に永住すると仮定した場合、つくば市にお墓が欲しいと答えた人…20人（183人中）

$(20 \div 183) \times 2,680$ （2035年の推計死亡者数）＝約 293

よって 2035 年以降、年間約 293 基のお墓が必要であると推計した。

2.4.3 供給予測

墓地についての供給を調べるにあたり、つくば市内における墓地分布を調査した。しかし調査の結果、現在、墓地がどういった分布形態になっているかを把握するための地図が存在しないことがわかった。

そこで、つくば市内に存在する墓地の分布図を作成し、分布の傾向を考察することを試みた。

つくば市内における墓地の住所は、つくば市役所環境生活部環境保全課で管理されており、経営許可申請等も同課で行われる。

ヒアリングよりこの市内における墓地の住所が墓地台帳というもので行われていることがわかり、情報公開請求を行うことを検討した。しかし、墓地台帳が紙媒体であることから情報公開請求の手続きを行ったとしても墓地台帳を全てコピーし、公開できない情報を黒塗りし、再びコピーするという手順を踏むため膨大な時間と費用がかかってしまうこと、また実習期間内に情報の開示が間に合わない可能性があることを踏まえ、本実習では情報公開請求を行わないこととした。

次につくば市ゼンリン住宅地図より墓地の分布図を作成することを試みた。しかし、これにはゼンリン住宅地図から墓地に当たる部分を隈なく調べ、住所を割り出すという作業となるため非効率的であり、これも行わないこととした。これらのことから、電話帳及び墓地情報サイトで調査が可能な民間霊園墓地¹を対象に分布図の作成及び供給数の予測を行う。²寺院型墓地については、市内の寺院をプロットすることはできたが、そこに墓地が併設されているかどうかは判別が不可能だったため、寺院境内型墓地を除いた。

また、ヒアリングよりつくば市民が埋葬先として選ぶのはつくば市内の墓地だ

¹ 分類については第 X 章を参照

² 公営墓地はつくば市内に存在しない。

けとは限らない。そこでつくば市周辺部³の墓地についても調査した。

2.4.3.1 つくば市民対象の墓地分布

つくば市内に民営霊園は5ヶ所ある。墓地経営認可数の推移は図2.13のとおりである。またつくば市周辺部に10ヶ所ある。各霊園へのヒアリングから現在の空き区画数は図1-2のとおりであることがわかる。しかし、空き区画数の推移については調査することができなかったため、現在の市内の墓地空き区画数の推移をグラフから考察することはできなかった。

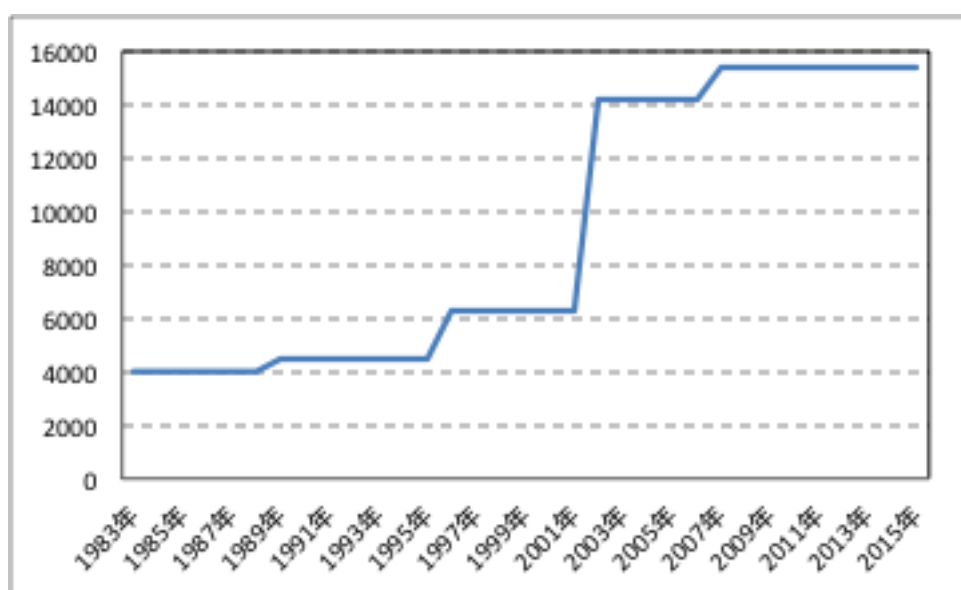


図 2.13 墓地経営認可数推移

図はいま作ってますごめんなさい(´・ω・｀)

2.4.4 需要と供給のバランス

需要予測と供給予測の結果を照らし合わせると、2027年につくば市内の空き区画がなくなり、その後2031年にはつくば市周辺の空き区画もなくなると予測できる。(図2.15)

³ つくば市周辺部はつくば市に隣接する市とした。

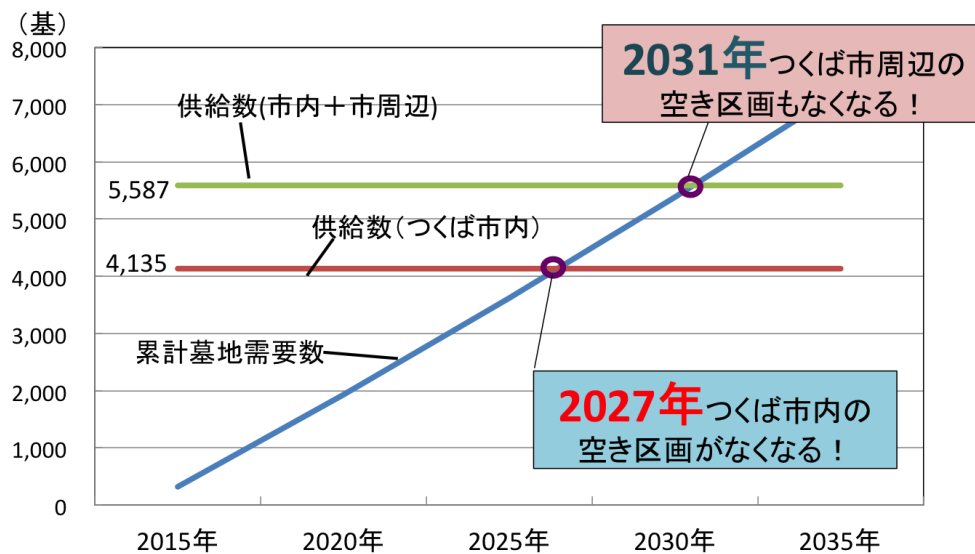


図 2.15 累計墓地需要数と供給のバランス

第3章 提案

3.1 つくば市未来構想に関して

つくば市未来構想について、「住んでみたい 住み続けたいまち つくば」をスローガンとして掲げるよりも、「ゆりかごから墓場まで 住み続けたいまち つくば」をスローガンとして掲げ、目指すべきであると私たちは考える。アンケート結果から、故郷でありお墓参りに行かない人がつくばに来てつくばを好きになると、つくばにお墓が欲しくなる傾向があると言える。つまり、そんな人こそつくばに「集えるお墓」を新たに持つということがふさわしいのではないだろうか。さらに、「集えるお墓」が整備されることによって、つくば市は「ゆりかごから墓場まで」、つまり死後のことまで考慮された街となる。そうした街になることで、市民は安心して仕事など日々の活動に専念し、人生をきちんと生きていくことができるのではないだろうか。

3.2 樹木葬の提案

「集えるお墓」の具体的な形態として、私たちは樹木葬を提案する。

＜樹木葬について＞

樹木葬とは、墓石の代わりに樹木を墓標とする埋葬方法である。横浜市や東京都の公営墓地ではすでに取り入れられており、市民からの支持も得られてい

る。

樹木葬のメリットとして、以下のことが挙げられる。

①お墓が常に綺麗に保たれる

樹木葬は墓石とは違い手入れを墓地管理者が行うため、常に美しい状態に保たれる。

②安価である

墓石が必要ないため、その分の費用がかからない。また、樹木葬を取り入れている墓地の多くは、年間の管理料が不要である。

③需給の変化に対応できる

樹木葬には、一本の樹木を囲む形で周辺に多くの遺骨を埋葬することが可能であるという特徴がある。そのため、需要の増減に柔軟に対応することが可能である。

以上のようなメリットに加え、樹木を植えることで公園のような緑豊かな景観を生み出している例もある。これらのことから、樹木葬をつくば市に導入することで、私たちが提案する「集えるお墓」つまり、お墓参りをピクニックのように楽しいものにするという理想に近づくことができると考える。

第4章 参考文献・謝辞

4.1 参考文献

1) いいお墓

<<http://www.e-ohaka.com/>>2015年5月12日アクセス

2) 政府統計の総合窓口

<<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/NewList.do?tid=000001031469>>2015年5月12日アクセス

3) 「つくば市未来構想 住んでみたい 住み続けたいまち つくば～人と自然と科学が育むスマート・ガーデンシティ～」,

<http://www.city.tsukuba.ibaraki.jp/dbps_data/_material/_files/000/000/018/084/miraikousou.pdf>2015年5月12日アクセス, つくば市

4) 「茨城県の人口と世帯（推計）」,

<<http://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/betsu/jinko/getsu/index.html>>2015年5月12日アクセス

5) 【市区町村】人口・面積・人口密度ランキング,

<http://uub.jp/rnk/cktv_j.html>, 2015 年 6 月 19 日最終アクセス

6) IMAGINE THE FUTURE ～未来を想え - 筑波大学 <筑波大学メッセージソング>

7) 堺市百舌鳥古墳群写真集

<<http://www.city.sakai.lg.jp>> 2015 年 6 月 16 日アクセス

8) 地球の歩き方 レコレタ墓地

<http://tokuhain.arukikata.co.jp/buenos_aires/2012/09/post_222.html>

2015 年 6 月 16 日アクセス

9) 「宜野湾市墓地基本計画」

<<http://www.city.ginowan.okinawa.jp/organization/kankyotaisakuka/newpage/bochikihonkeikaku.html>>2015 年 5 月 12 日アクセス, 宜野湾市

10) 東京都平成 26 年度都立霊園公募受付状況と公開抽選について

<<http://www.metro.tokyo.jp/INET/OSHIRASE/2014/08/20o8e300.htm>>2015 年 6 月 18 日アクセス

11) 横浜平成 25 年度の横浜市営、メモリアルグリーン・三ツ沢墓地の募集数と倍率

<<http://www.ishinoya.co.jp/info/20130814.html>>2015 年 6 月 17 日

12) アイキャン株式会社

< <http://www.i-can.jp/sousou/index.htm> >2015 年 5 月 12 日アクセス

13) 牛久沼聖地公苑

<<http://www.usiku.jp/index.html>>2015 年 5 月 12 日アクセス

14) お墓の基礎知識 (種類・基本構成)

< <http://www.bluemileu.com/hakajimai-basis.html> > 2015 年 5 月 12 日アクセス

15) 熊の山霊園

<<http://www.tsukuba-k-reien.com/index.html>>2015 年 5 月 12 日アクセス

16) グリーンメモリアムつくば

<<http://www.gm-tsukuba.com/>>2015 年 5 月 12 日アクセス

18) 「公営墓地の特徴」

< <http://tennensui.sakura.ne.jp/cast55/ohaka/kind/kiji7.html> > 2015 年 5 月 12 日アクセス

17) 国土交通省「筑波研究学園都市」

<<http://www.mlit.go.jp/crd/daisei/tsukuba/>> 2015 年 5 月 11 日アクセス

19) 「檀家と信徒」

< <http://jodo.or.jp/adherent/index2.html> >2015 年 5 月 12 日アクセス

20) 「つくば市墓地等の経営の許可等に関する条例(平成 24 年 4 月 1 日施行)」

<http://www1.g-reiki.net/tsukuba/reiki_honbun/e019RG00000952.html#e000000126>2015 年 5 月 12 日アクセス

21) 筑波荃崎霊園

<<http://www.tsukuba1100.jp/>>2015 年 5 月 12 日アクセス

22) つくば霊園

< http://tsukuba-reien.com/main_.html >2015 年 5 月 12 日アクセス

23) 「墓の基礎知識」表現文化社

<<http://www.sogi.co.jp/sub/jituyou/chisiki/hakakiso.htm>>2015 年 5 月 12 日アクセス

24) 濱津桃子 「新しいスタイルの墓」『墓地』, p15, システム情報工学研究科社会システム工学専攻.

25) BLUE MILEU

<<http://www.bluemileu.com/hakajimai-basis.html>>2015 年 5 月 12 日アクセス

26) 墓地、埋葬等に関する法律」(昭和二十三年五月三十一日法律第四十八号),

< <http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S23/S23H0048.html> > 最終改正:平成二三年一二月一四日法律第一二二号. 2015 年 5 月 12 日アクセス

27) 「横浜市墓地に関する市民アンケート調査 報告書」

<<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/kankyoshisetu/bochi-enq/25bochi-enq-all.pdf>>2015 年 5 月 12 日アクセス, 横浜市健康福祉局

28) 「横浜市墓地問題研究会 報告書」

<<http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/kankyoshisetu/bochimondai-kenyukai/bochiken-houkokusho.pdf>>2015 年 5 月 12 日アクセス, 横浜市墓地問題研究会

29) 「豊見城市墓地基本計画」

<http://www.city.tomigusuku.okinawa.jp/sp/userfiles/files/living/02_siryoyou_jyuyouyosoku.pdf>, 2015 年 5 月 12 日アクセス, 豊見城市

30) 「石垣市墓地基本計画(素案)」

<

coment/034/bochi_soan.pdf>2015年5月12日アクセス, 石垣市

31) 「多治見市墓地需要予測及び今後の市営墓地のあり方の検討」

<<http://www.city.tajimi.lg.jp/kurashi/kaso/documents/bochinoarikatagaiyou.pdf>>2015年5月12日アクセス, 多治見市

32) 青葉ニュータウン霊園「青葉ニュータウン霊園の「理由」」

<<http://www.aobanewtown-kato.jp/env.html>>2015年5月12日アクセス

33) 財団法人 東京市町村自治調査会「墓地と市町村との関わりに関する調査研究報告書」

<<http://www.tama-100.or.jp/cmsfiles/contents/00000000/252/botitoshichoson.pdf>>2015年5月5日アクセス

34) 神戸市須磨区「須磨区の歴史」

<<http://www.city.kobe.lg.jp/ward/kuyakusho/suma/midokoro/rekisi.html>>2015年5月5日アクセス

35) 山本石材工業所「須磨時墓地」<

<http://homepage3.nifty.com/yamal48/top/sumadera.html>>2015年5月5日アクセス

36) UR都市機構「city&city ちはら台」

<<http://www.ur-net.go.jp/chibanavi/chiharadai.html>>2015年5月5日アクセス

37) UR都市機構「city&city おゆみ野」

<<http://www.ur-net.go.jp/chibanavi/oyumino.html>>2015年5月5日アクセス

38) 横浜市「港北ニュータウン」

<<http://www.city.yokohama.lg.jp/toshi/chiikimachi/nt/>>2015年5月5日アクセス

39) お墓の社会学 -社会が変わるとお墓も変わる- 榎村久子 著

40) 持続可能な墓地再生と墓地永続管理システムの研究 日本都市計画学会 都市計画論文 No. 42-1 長江 曜子 八木澤 壮一

41) 気がつけば「不法投棄」に金銭トラブルのもと 朝日新聞 Weekly AERA 2010.12.6

42) 全国の市区町村 人口・面積・人口密度ランキング

<http://uub.jp/rnk/cktv_j.html> 2015年6月10日アクセス

43) 株式会社 ヤクルト本社<ヤクルト本社の社墓>

- 44) 新明和工業 <新明和工業の社墓>
- 45) 日本しろあり対策協会 <しろありの墓>
- 46) 堺市百舌鳥古墳群写真集
<<http://www.city.sakai.lg.jp>> 2015 年 6 月 16 日アクセス
- 47) 地球の歩き方 レコレタ墓地
<http://tokuhain.arukikata.co.jp/buenos_aires/2012/09/post_222.html>
2015 年 6 月 16 日アクセス
- 48) 屋久島
<<http://togetter.com/li/599811>> > 2015 年 6 月アクセス
- 49) 沖縄：シーミー祭
<<http://blogs.yahoo.co.jp/asadaio/25033633.html>> 2015 年 6 月アクセス
- 50) 桜葬 <<http://temotokuyou.blog54.fc2.com/blog-entry-34.html>> 2015 年 6 月アクセス
- 51) ピクニックの写真 <<http://rajaraja.exblog.jp/m2009-05-01/>> 2015 年 6 月アクセス
- 52) 東京都 平成 26 年度 都立霊園公募受付状況と公開抽選について
<<http://www.metro.tokyo.jp/INET/OSHIRASE/2014/08/20o8e300.htm>> 2015 年 6 月 17 日アクセス
- 53) 横浜 平成 25 年度の横浜市営、メモリアルグリーン・三ツ沢墓地の募集数と倍率
<<http://www.ishinoya.co.jp/info/20130814.html>> 2015 年 6 月 17 日
- 54) 槇原 久子：近代日本墓地の成立と現代的展開に対する研究,
<http://ci.nii.ac.jp/naid/110004305657> , 1995.
- 55) 槇原 久子：ノルウェーとスウェーデンにおける大都市の墓地の現状と変化への対応, <http://repo.kyoto-wu.ac.jp/dspace/handle/11173/374> , 2005.
- 56) 川添 善行・近藤 真由子：「首都圏における事業型墓地開発の実態とその対策」, www.lij.jp/info/sien/sien17/kawasoe.pdf , 2005.
- 57) 深江 誠子：樹木葬の評価と限界, morininaru.jimdo.com/app/.../樹木葬の評価と限界, 2007.
- 58) 金, 亮希：樹木葬会員の意識からみた樹木葬墓地の今後の課題,
repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/dspace/handle/2261/26627 , 2009.

4.2 謝辞

本実習を進めるに際して、多くの方々にご協力いただきました。心から感謝いたします。

富田 徹 様（つくば市役所 環境生活部 環境保全課）

沖山 通玄 様（熊の山霊園）

田中 章雄 様（つくば霊園）

矢部 裕也 様（墓地情報センター）

その他ヒアリング調査にご協力いただいた霊園のみなさま

アンケートにご協力いただいた学生のみなさま（アンケート協力）

つくば霊園来園者の方（インタビュー協力）

糸井川 栄一 先生、鈴木 勉 先生、谷口 綾子 先生、吉野 邦彦 先生
（インタビュー協力）

森 英高 様（近未来計画学研究室のみなさま）

平成 27 年 サステイナビリティ班一同

第5章 補足資料

5.1 アンケート用紙

お墓に関するアンケート

筑波大学理工学群社会工学類「都市計画実習」サステイナビリティ班

代表：小出拓也（mail: koide.takuya@sk.tsukuba.ac.jp）

指導教員：筑波大学システム情報系 教授 谷口守

本アンケートは、社会工学類都市計画専攻の必修科目「都市計画実習」という授業の一環で、お墓について調査を行っているものです。

このアンケートの回答は自由であり、拒否したり中止したりしていただいても構いません。調査は無記名で行われ、みなさんのプライバシーは守られます。

調査結果は、今回の授業内でのみ使用され、個人が特定される形で公表されることはありません。

回答に要する時間は3分程度です。

本アンケートに関して質問などがございましたら、教室内にいる班員にお尋ねください。

お忙しいところ恐れ入りますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

Q1. 性別（男 女） 年齢（ ）歳

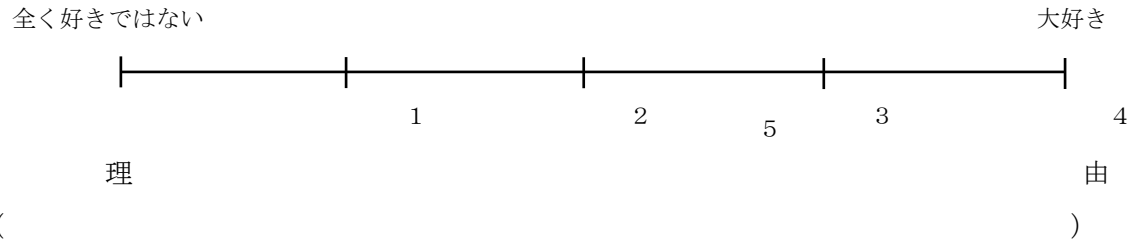
Q2. 帰省先はどこですか（都・道・府・県 / 国）
（市・町・村・区）

→そこはあなたの生まれ育ったまちですか（ YES
／ NO ）

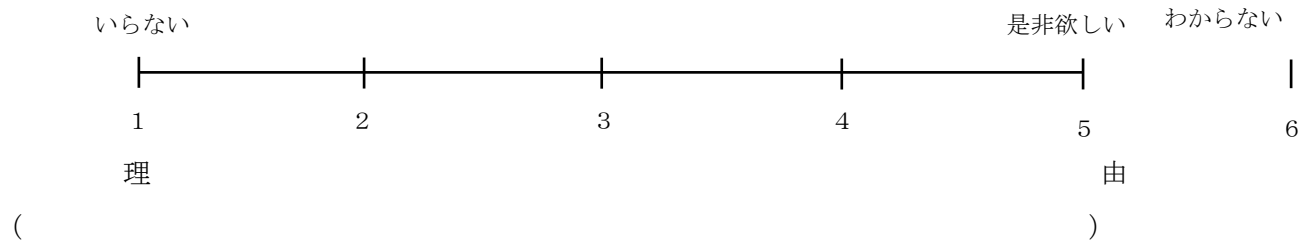
Q3. お墓参りをしたことがありますか
（ YES ／ NO ）

以下、Q3 で YES と答えた方のみ回答してください（NO と答えた方は Q6 へお進みください）

Q7. あなたはつくばが好きですか



Q8. つくばに永住すると仮定した場合、自分のお墓はつくばに欲しいですか



Q9. その他、お墓に関してご意見等あれば自由にご記入してください